

埼玉会館創立 100 周年記念フォーラム



第 2 弾

「岡田信一郎と御成婚記念埼玉會館」

2026 年 10 月 31 日 (土)

13:30 ~16:30 (開場 13:00)

第 3 弾

「100 年を遡る埼玉県と埼玉会館」

2026 年 11 月 7 日 (土)

13:30 ~16:30 (開場 13:00)

会場：埼玉会館大ホール

入場無料 (要事前申し込み)

文化は、
ずっとここに
ある。



申込期間

9 月 1 日 (火) から

申込みフォーム

申込方法

QR コードから申込みフォームをご利用ください。



問合せ

埼玉会館管理課 小澤・新井

TEL: 048-829-2471 (休館日を除く 10 時 ~ 19 時)

主催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



SAITAMA
ARTS
FOUNDATION

埼玉会館創立 100 周年記念 特設サイト

www.saf.or.jp/saitama/100th



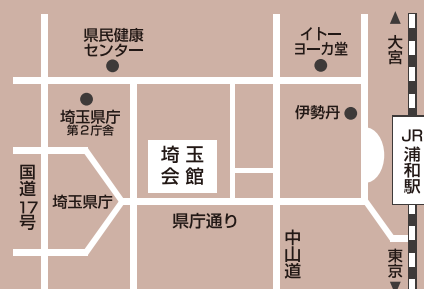
埼玉会館のご案内

〒330-8518

さいたま市浦和区高砂 3-1-4

JR 浦和駅西口より徒歩 6 分

駐車場 (有料) は台数に限りがあるため、
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。



埼玉会館は 2026 年 11 月 6 日に創立 100 周年を迎えます。

「岡田信一郎と御成婚記念埼玉會館」

2026 年 10 月 31 日 (土) 13:30 ~16:30 (開場 13:00)

第 1 部「様式の名手・岡田信一郎、歴史と近代の超克」

斎藤守圀知事の友人という縁で埼玉會館の設計を依頼された岡田信一郎。大正・昭和初期に、公共建築から住宅に至るまで数多くの建築を残した多作な建築家でもあります。歴史研究から建築家へと至った彼は、つねに時代の先端をよむ建築家でもありました。彼の建築を振り返りながら、岡田建築の近代性にも迫ります。



本橋 仁 (もとはし じん)

金沢 21 世紀美術館キュレーター、奈良文化財研究所客員研究員、総合地球環境学研究所客員准教授。博士 (工学)。専門は建築史。文化資源の再文脈化を促す問いの場としての展示空間と、その建築的役割の再評価に向けたキュラトリアルな実践を目指し諸々の活動をしている。主な企画に「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」(京都国立近代美術館、2020 年)、「バイオマス・マクベス」(岡山県真庭市、2024 年)、「すべてのものとダンスを踊って 共感のエコロジー」(金沢 21 世紀美術館、2024 年)、「路上、お邪魔ですか？」(金沢 21 世紀美術館、松濤美術館、2026)「路上、お邪魔ですか？」(金沢 21 世紀美術館、松濤美術館、2026) など。

第 2 部「御成婚記念埼玉會館を設計図から読み解く」

埼玉會館の設計図をもとに建築模型の製作指導にあたり、その建築の特徴が明らかになりました。果たして、埼玉會館は名建築だったのでしょうか。



渡邊 研司 (わたなべ けんじ)

東海大学建築都市学部教授 博士 (工学) AAGraDip. 1961 年福岡市生まれ。1985 年日本大学理工学部建築学科卒業。1987 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。1987 年から 93 年、芦原建築設計研究所で設計に従事。1993 年から 98 年、ロンドン AA スクール大学院歴史理論コースに留学、イギリス近代建築運動についての研究を行う。1999 年、東京大学にて博士 (工学) 授与。2000 年から 2004 年、連 健夫建築研究室にて設計に従事。2005 年から 2010 年、東海大学工学部建築学科准教授。2011 年から 2022 年、同教授。2022 年から現在まで、同大学建築都市学部教授。1999 年から現在まで、DOCOMOMO Japan にて活動。2018 年から 2023 年まで DOCOMOMO Japan 代表理事。

第 3 部「岡田信一郎から前川國男へ」

トークセッション：2 人の登壇者に加えて橋本功氏と青山恭之氏と会場の皆さんで「初代埼玉會館に求められたものは何か」「2 代目埼玉會館に引き継がれたものは何か」「これからも埼玉會館がずっとここにあり続けることの意義は」などに想いを馳せてみたいと思います。



橋本 功 (はしもと いさお)

株式会社 前川建築設計事務所 代表取締役所長。1945 年神奈川県生まれ、1970 年日本大学理工学部建築学科卒業後 (株) 前川國男建築設計事務所入所、1994 年 (株) 前川建築設計事務所取締役、2000 年代表取締役に就任、現在に至る。担当した主な作品は、福岡市美術館 (1979)、埼玉県立自然史博物館 (1981) (現・埼玉県立自然の博物館)、国立音楽大学講堂 (1983)・国立音楽大学付属幼稚園 (1984)・付属中・高等学校増築 (1995)・付属小学校 (2008)、千葉県東総文化会館 (1991)、埼玉県児玉町総合文化会館 (1995) など。この間、弘前市から熊本県までの、使われている全国の前川建築の保全改修や前川建築に関する様々な活動に精力的に係わり続けている。



青山 恭之 (あおやま やすゆき)

1958 年、旧浦和市生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。妻の永田博子とアトリエ・リング一級建築士事務所を主宰、スペース「つきのみちくさ」を運営。武蔵野美術大学、埼玉大学等での非常勤講師を経て、現在、ものづくり大学非常勤講師。美術と街巡り・浦和実行委員会事務局長。青少年育成浦和高砂地区会会長としても活動。

「100 年を遡る埼玉県と埼玉会館」

2026 年 11 月 7 日 (土) 13:30 ~16:30 (開場 13:00)

第 1 部「埼玉会館と浦和 育て・育てられ (後編)」

江戸時代まで遡って中山道と浦和の町を見ることで、文教都市として発展してきた理由と埼玉会館がここにできた背景を探ります。



青山 恭之 (あおやま やすゆき)

1958 年、旧浦和市生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。妻の永田博子とアトリエ・リングー級建築士事務所を主宰、スペース「つきのみちくさ」を運営。武蔵野美術大学、埼玉大学等での非常勤講師を経て、現在、ものづくり大学非常勤講師。美術と街巡り・浦和実行委員会事務局長。青少年育成浦和高砂地区会会長としても活動。

第 2 部「“公会堂”ではなく“会館”として出発した埼玉会館 —埼玉会館誕生の時代背景—」

演説会や政治集会の場として各地に“公会堂”が誕生する中、浦和には明治時代以来、各種の学校が集まり、文学・美術・音楽を志向する市民の活動も活性化しました。様々な発表の場が求められる中、埼玉会館が果たした役割はとても大きなものでした。埼玉会館誕生の時代背景を、御一緒に考えましょう。



宮瀧 交二 (みやたき こうじ)

大東文化大学文学部歴史文化学科教授・図書館長。博士〔学術〕(新潟大学大学院より)。立教大学大学院文学研究科博士後期課程から埼玉県立博物館主任学芸員を経て、平成 17 年(2005)より大東文化大学。専門は、日本史(日本古代史、観光歴史学)・博物館学・埼玉県の歴史。著書に、『岡倉天心 思想と行動』[共著](吉川弘文館)、『元号と日本人』[編著](プレジデント社)、『新羅郡の時代』[編著](雄山閣)ほか。平成 25 年(2013)、(公財)日本博物館協会・棚橋賞を受賞。NHK・G「プラタモリ」・「日本人のおなまえ」・「チョコちゃんに叱られる」、テレビ朝日「スーパーJチャンネル」ほか、コメンテーターとしての TV 出演も多い。

第 3 部「文化の継承と豊かな社会とは ～塔頂の女神像から地上の鏡面像へ～」

トークセッション：島田有美子氏に、旧館の女神像から現在ある鏡面像の存在についてのお話をきっかけに青山さん、宮瀧さんと会場の皆さんで、100 年という時間の流れを実感しながら文化と社会の関係や、次の時代に埼玉会館に期待されることなどについて考えてみたいと思います。



島田 有美子 (しまだ ゆみこ)

1996 年よりうらわ美術館(準備室含)、さいたま市立博物館、さいたま市立漫画会館学芸員として 2019 年まで勤務。展覧会「人間国宝の工芸 増田三男・内藤二郎・富本憲吉—身辺から生まれる美」 「本という美術—大正期の装幀から現代のオブジェまで」 「創刊号のパノラマ—近代日本の雑誌・岩波書店コレクションより」 「足踏みオルガンがやってきた!—唱歌から浪花節まで・うたをめぐる近代史」 「盆栽村の楽天に出会う 1・2」 「えっ?『授業』の展覧会—図工・美術をまなび直す」 「縫い—その造形の魅力」 「素描礼讃—岸田劉生と木村荘八」 等を企画・実施。





同時開催

埼玉会館エスプラナード展 10月24日(土)～11月23日(月祝)

埼玉会館100年博 10月31日(土)～11月7日(土)

埼玉会館みんなの文化祭 11月1日(日)

詳細はこちら▶ 埼玉会館創立100周年記念特設サイト
www.saf.or.jp/saitama/100th



何気ない日常の中に、こんな素敵な場があることを彩発見。
先人の思いを繋いで豊かな未来へ。